

1) 千葉大学II-BEATが目指す人材像： 課題解決型人材



◆国際教養学部で涵養する力のイメージ

①社会の様々な事象を分析

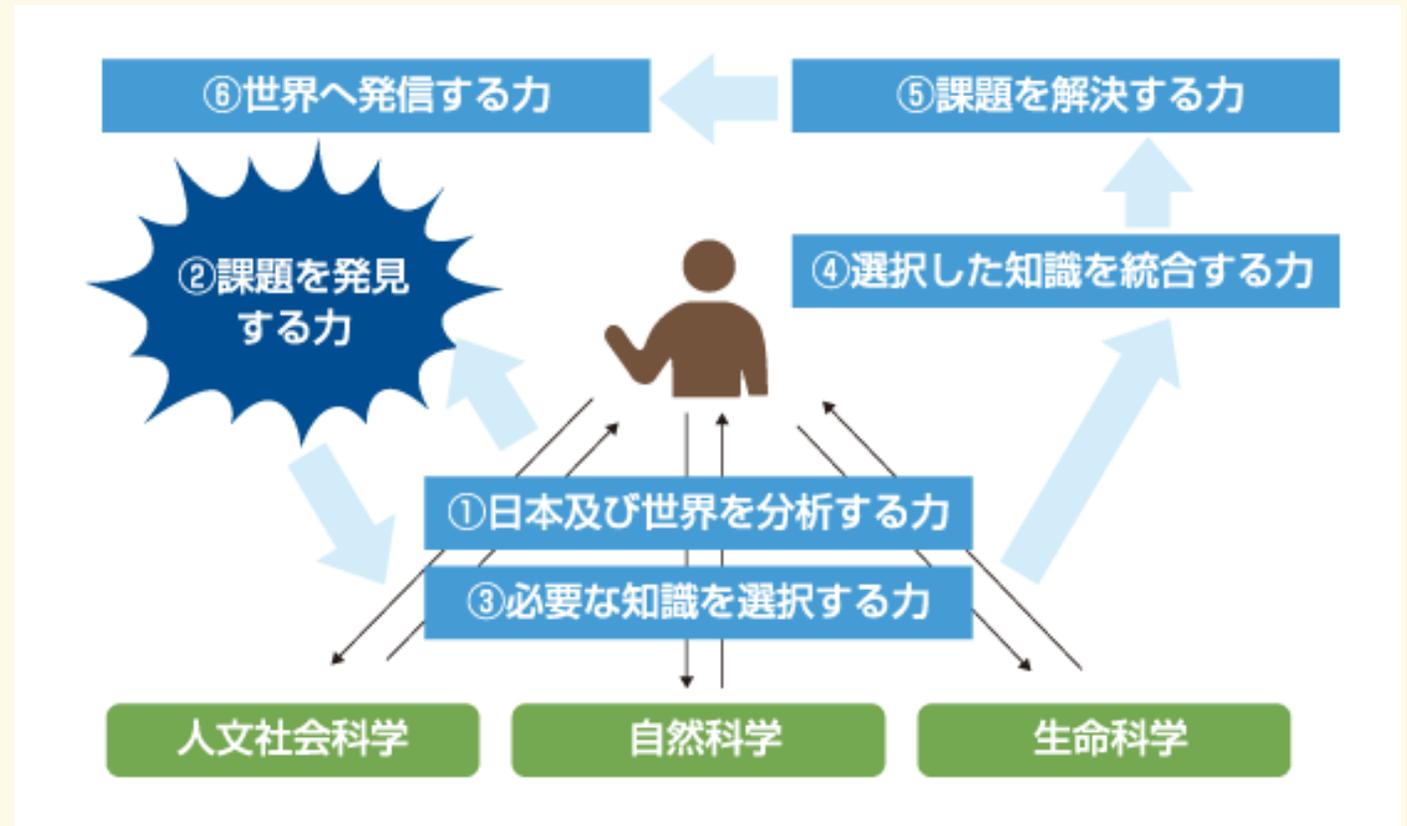
②自ら課題を発見

③必要な知識を選択

④それらの知識を統合

⑤課題を解決

⑥解決策を世界へ発信



2) 新たな価値を創造できる人材育成のあり方①： 国際教養学部の教育の特色



◆文理混合による課題解決型教育

- 人文社会科学、自然科学、生命科学など、幅広い学問分野を混合して学ぶ
- 決められた学問分野ではなく、社会課題の認識からスタート（イシューベース）

◆テーラーメイド教育

- 個々の学生が、自ら設定した課題に応じて、その解決に必要な科目を領域を問わず履修
- 教員やSULAと呼ばれる学修支援スタッフによるサポート

◆アクティブラーニング

- 多数のグループワークやPBL型の授業
- 学生の主体的な学びをサポートする学習環境

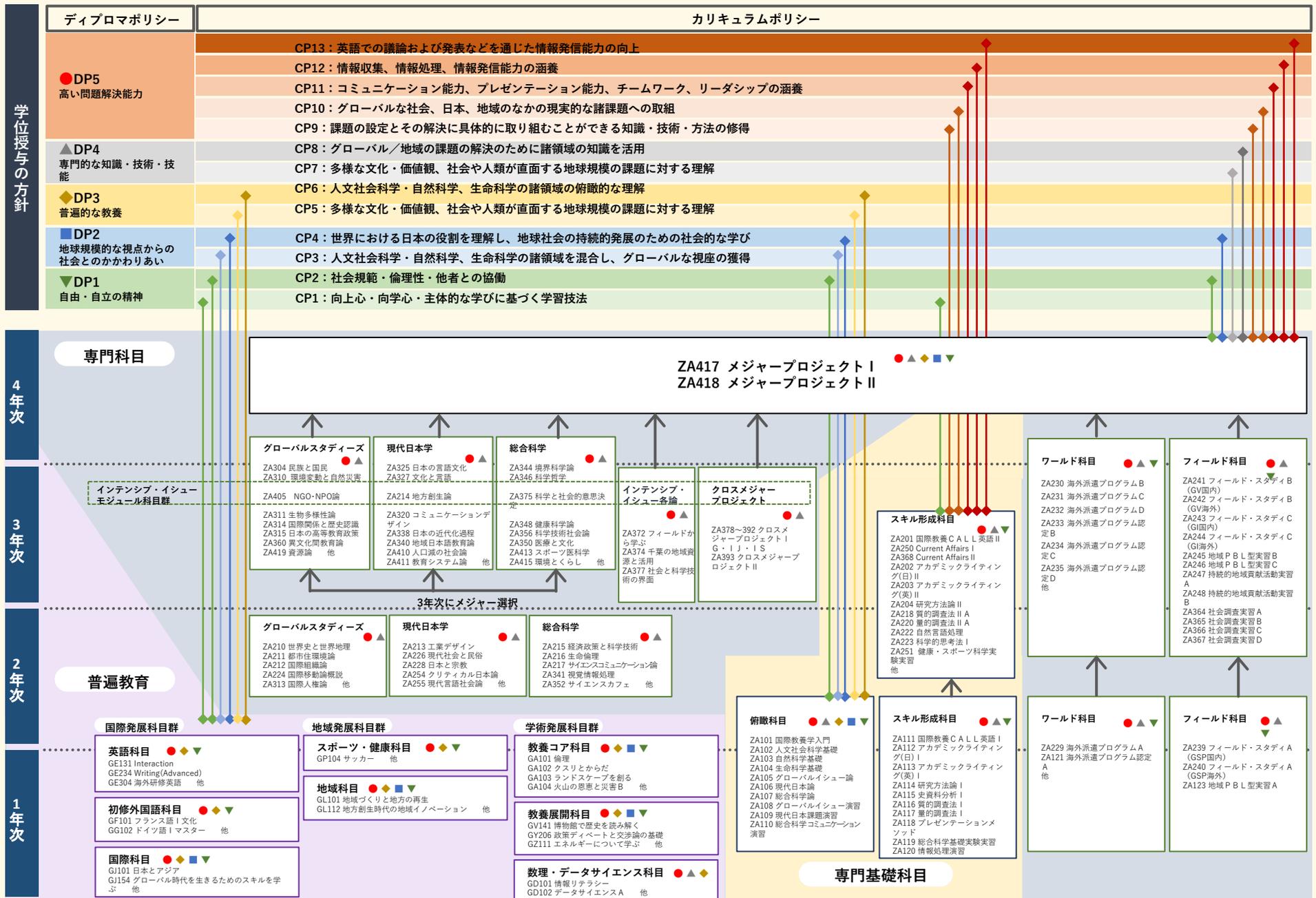
◆ソーシャルラーニング

- 「現場で学ぶ・現場を学ぶ」という学修理念
- 多数のフィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどを含んだプログラム

◆海外留学

- 卒業までに最低1回の留学

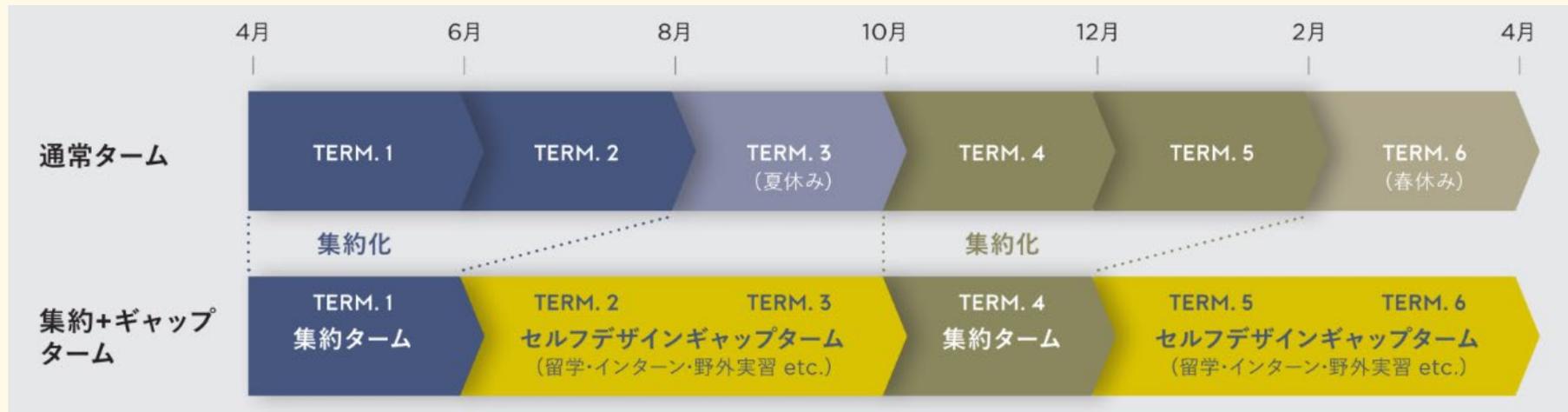
【国際教養学部国際教養学科 カリキュラムマップ】



2) 新たな価値を創造できる人材育成のあり方②： II-BEATによる新しいカリキュラム



◆3年次6ターム制を発展的に活用したメリハリのあるカリキュラム



■T1, 4「集約ターム」：必修科目を重点的に置く

- ・ 横断する学問領域の教員による連携的かつ集約的な講義、演習を行う

■T2-3, 5-6「セルフデザインギャップターム」：必修科目は置かない

- ・ 留学・インターン・野外実習等の学びを、個々の学生がカスタマイズ

【千葉大学「インテンシブ・イシュー教育プログラム」(II-BEAT)の取り組み 全体像】

4月 6月 8月 10月 12月 2月 4月



☞ 「ターム制」を活用し、国際教養学部の3年次の必修の授業を第1・4タームに集約。メリハリの利いたカリキュラムに

必修科目を集約しての
領域横断型の学び

個々の学生が
学びの内容をカスタマイズ

必修科目を集約しての
領域横断型の学び

個々の学生が
学びの内容をカスタマイズ

クロスメジャー プロジェクトⅠ

- 多様な社会課題・学問分野に触れ、それぞれのイシューに取り組むための発想の基礎を学ぶ
- 計15のプログラムから2つ以上を受講
- 週2回開講

特別プログラム

- それぞれのイシューの探究に必要となる、専門的知識・スキルを深める
- 地域でのPBL型の活動や、実験・実習など

自己設計科目

- 社会・現場での体験的な学びや活動を、単位として認めていく仕組み
- インターン、学外でのワークショップなど

通常の授業、海外留学、その他

- 通常の授業の他、ギャップタームを利用して、長期の海外留学にも行きやすく

モジュールコース

- 4つのテーマについて集約的に学ぶ
科目A：総合化科目
科目B：インテンシブイシュー各論
科目C：必修（CMPⅡ）
- 科目BCは週2回開講

モジュール以外の テーマの探究

- 科目A：受講可
科目B：受講制限
科目C：必修（CMPⅡ）

特別プログラム

- それぞれのイシューの探究に必要となる、専門的知識・スキルを深める
- 地域でのPBL型の活動や、実験・実習など

自己設計科目

- 社会・現場での体験的な学びや活動を、単位として認めていく仕組み
- インターン、学外でのワークショップなど

通常の授業、海外留学、その他

- 通常の授業の他、ギャップタームを利用して、長期の海外留学にも行きやすく

【特定のテーマについて多様な角度から集約的に学ぶ「モジュールコース」】

◆モジュールコース

- 総論をオンデマンドで学ぶ「科目A」
- インテンシブにテーマを深める「科目B」
- 演習型の「科目C」

という3科目を同一のタームに受講

